

(別紙4) 平成 23 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272000112		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・美都②		
所在地	〒698-0204 島根県益田市美都町山本イ2番地3		
自己評価作成日	平成23年9月21日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.katgokouinyou.jp/katgostp/informationPubl1c.do?CD=3272000112&amp;SCD=370&amp;PCD=32">http://www.katgokouinyou.jp/katgostp/informationPubl1c.do?CD=3272000112&amp;SCD=370&amp;PCD=32</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地		
訪問調査日	平成23年10月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人生の終盤での出会いを大切に思い、常に利用者本人が主体であり、一日でも多くの笑顔が見られるよう努めている。  
スタッフ間の連携がしっかりとでき、共感できる仲間(利用者・スタッフとも)作りを目標に日々、努力している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)			

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内で共通の理念があり、月に一度の自己評価表に基づき理念に沿ったケアができているかどうかスタッフ会議で確認し合い、ケアプランにもつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加し環境整備や、行事等に積極的に参加したり、日常的に散歩や買い物などに出かけ、地域の方と挨拶や会話をし交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の自治会の場で貢献できる事を問いかけたり、地域版のお便りの中に認知症ケアのアドバイスを入れるなど、理解を深めようと努めており、また、人材育成のため、実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況や取り組み、避難方法や緊急時の対応、困っている事などを報告し、そこでの意見を、ミーティングや、スタッフ会議等で話し合い、検討してケアに努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議以外にも、入居者の暮らしぶりや、今後についての相談、話し合いなどを行い、問題解決と一緒に取り組んでいただけるよう、努力している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階に位置しているため、危険回避からやむを得ず施錠しているが、ストレスにならないように外出を多くしたり、隣の民家を借りて居場所作りに心がけ、身体拘束をしないよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回虐待防止に関する自己チェックをしており、自分のケアの振り返りをしている。そのような状況をつくらないように、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けられる方がおられ、職員も、その制度について学びたいという姿勢もあり、研修以外にも、今後勉強会などに取り入れ理解を深めていきたい。また、個々の必要性を関係者に相談しながら取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に利用料金、終末期や重度化への対応、契約解除などについて、説明し理解を得ている。改定する場合や、その時の家族の要望、不安に思われる事を聞くよう心がけ、理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族アンケート、家族会での話し合い、面会時やケアプラン作成時、運営推進会議等に参加していただき、意見や要望を聞き、職員間で話し合いケア等に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や勉強会、ミーティング等で意見交換をしたり、普段からコミュニケーションを図り、聞き出す等している。月1回のホーム長会議に本社の上司も出席し、スタッフの意見・提案を伝えられるよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はホーム長会議や、現場に運営者が来た際など、職員の状況・要望等を伝え、働きやすい職場環境であるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には、多くの職員が参加できるような心がけ、伝達講習や研修報告書の提出、意見交換などを行っており、事業所内では講師を招く等し、人材育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム全体で、年2回テーマを設けて交流研修を開催しており、その内容をホームに持ち帰り、職員間で共有し、検討しながら、サービスの向上に努められるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の状況、想いなどを把握し、職員間で、その情報をミーティング等で話し合い、ご本人が安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅訪問や、ホームの見学、電話相談、面会時など、ご家族の不安や要望に耳を傾けながら、関係づくりに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階ではご家族の面会や電話などでご本人の不安感の解消ができるように協力を得ている。緊急性のある場合など、ケアマネジャーと相談を重ね対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活全般において共に行動する事を基本とし、ひとりひとりの得意な事に力を発揮していただきながら、時に教えていただき、喜び合える関係づくりを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のお便りや、面会時、電話連絡など日々の様子や変化を伝え、現状の理解をいただき、贈り物がご本人宛に送られてきた場合等、ご家族と話ができるよう努め、協力が得られるような関係作りを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの理美容院や喫茶店へ行ったり、近所の商店での買い物や散歩、地域行事への参加など、継続的な交流ができるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を職員同士が理解をし、気の合う人同士が過ごせる場面設定をしたり、孤立しないよう、職員間で調整しながら、日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向等、表情や言葉等で思いをくみ取り、少しでも実現できるよう心がけている。困難な場合は、家族や、知人など協力を得ながら検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会、ケアプラン作成時や、家族会などの機会に情報収集し、日々のケアに活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録などで、情報を共有し、個々の能力や、心情を見極めて、思いに添えるような支援ができるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のアセスメント、モニタリングを行い、本人の意向の聞き取り(推測も含めて)を基に、家族同席で介護計画を作成できるよう努めている。参加できない家族に関しては、面会時や電話で意見が聞けるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や伝達簿など、気付いた事を記入し、それに基づいてミーティング等で話し合うよう心がけているが、情報の伝達が上手くできず、共有できていない時がある為、努力を要する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族の状況、要望に応じて、柔軟な対応ができるよう、他機関とも連携をとりながら、少しでも、満足できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、行政や地域包括支援センターの職員、地域の民生委員、老人会の参加もあり、周辺の情報や、意見交換等し、協力関係を築きながら、楽しく、安全に暮らせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人のかかりつけ医を基本に、遠方の場合は往診が可能な協力医に、家族の同意を得て依頼している。他科受診は家族同行で、できない場合は受診の状況を報告している。医師と連携をとりながら適切な医療を受けられるよう努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理をしている。必要と判断すれば医師と相談し、早期に医療機関への受診をすすめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には可能な限り面会に行き、また、早期退院に向けて、家族や病院関係者と情報交換し、連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、早い段階から家族の意向を聞き、かかりつけ医との連携のもとに、その時々状況に応じて可能な限りの対応をしているが、新人職員も入り、終末期に関しての勉強会が必要である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一度全職員が救命講習を受講している。急変時のマニュアルを新しく作成し、職員がいつでも読めるよう、夜勤セットとして常備したり、職員会議等を利用し、共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方や消防署の協力のもとで、年に2度総合訓練をおこなっている。又、ホーム内で月に1度いろいろな状況を想定して、火災・災害時の避難や通報などの話し合いや訓練を行うよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	狭い環境という事もあり、どこに居ても目につきやすいため、他者に気づかれないようさりげない声かけや、声の大きさに気をつける等配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの状態や表情を観察し、本人が答えやすいように、声かけの工夫をし、自己決定ができるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、本人のペースや、本人が言った言葉や思いを聞き逃さず、希望に沿って生活できるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容院へ行くなど、本人の意向に沿うようにしている。外出する時は、おしゃれをするよう声をかけ、本人の意向で決めたり、自己判断する事が難しい方は職員が声をかけ一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用した料理で楽しく食べていただけるよう工夫している。又、嗜好に合わせて食事を作ったり、今、何が食べたいか聞き、時にアドバイスをいただきながら、一緒に作っている。準備、片付けと、できる事を見極め、職員と一緒にいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に一度栄養士による栄養指導を受けている。食事量や水分摂取量も記録し、職員間で協力しながら、本人が食べやすい(飲みやすい)ように、別メニューの工夫や食事(水分)量、食事形態など配慮をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	狭い環境のため、さりげなく声をかけ、行っている。就寝前は義歯を使用している方で、磨き残しがある方は、本人に気づかれないよう、さりげなく夜間磨いておき、洗浄剤に浸け、朝は安心して装着できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄リズムやパターンを知り、スタッフ間で協力しながら、自尊心を傷つけないよう配慮し、介助している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ・運動・水分摂取・繊維質の多い食事・起床時の牛乳など個々の状態に合わせて工夫している。下剤を服用している方は、その調節も日頃からしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	極力本人の希望に沿えるよう心がけている。拒否のある方には、時間帯やその日の表情、状況の観察等をし、心地よく安心して入浴できるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温の調節等をし、快適に眠れるよう、又、個々に合わせた休息法をとる等、配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容がわかるようファイルに収め、目の届く所に設置しており、処方の変更時には、伝達簿や記録を通じて共有できるよう努めている。服用による変化等観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を知り、1人1人の得意分野を把握し、その力を発揮できるよう努めている。狭い環境の為、隣家を利用し、カラオケや、マッサージ機等、気分転換ができるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、散歩等、体調や希望に応じた外出ができるよう努めている。知人、地域の方との関係も築かれて、大きな楽しみとなっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心や満足に向けて、自己管理している方もある。できない方は希望に応じて使うことができるよう、家族と相談の上で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、年賀状、電話等、適宜行っている。手紙等、自筆が難しい方には、名前だけでも書いていただいたり、行事や、贈り物のお礼等は欠かさないようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭い環境のため、落ち着いた静かな空間作りは困難な面もあるが、テレビの音量、職員同士の会話など音に関しては気を配っており、不快な思いをしないよう職員間で話し合ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やベランダに椅子やソファを置き自由に過ごせるようにしている。時に借りている民家に行き、のんびり過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を置き、自分の趣味の作品や、家族写真を飾るなどし、自分の居場所として心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の状況、状態を見極めて、危険となる物や、混乱、失敗の原因となるもの、その時の状況に合わせて環境の整備をし、安全に、安心して生活できるよう工夫している。		